日刊 動労千葉

81.12.3

No.911

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

最先頭で激動の82年を闘いぬこう！

＝『全員が活動家になろう』を合言葉に＝

11/30 津田沼支部大会

津田沼支部 通信員発

津田沼支部は十一月三十日、電車区講習室で第四回支部定期大会を開催した。

大会は来賓として三里塚反対同盟石毛常吉さんを迎え、本部からは、水野副委員長・吉岡組織部長・田中青年部長が大会に参加し、七〇名をこえる代議員・傍聴者が結集し、熱気あふれる雰囲気の中で、「八一・三闘争、六・十二動労『本部』革マルのデッチ上げ告訴粉砕闘争を闘い抜いた力を発揮し、激動の八二年を全支部の最先頭で闘おう」という決意と方針を確認、大成功をかちとった。

大会は、議長に中村康幸君を選出し、片岡支部長よりあいさつを受けた。

片岡支部長は、「日本をゆるがした八一・三決戦ストを闘い抜いたがゆえにかけられた、『本部』革マルによる『六・十二』デッチ上げ攻撃を、全組合員の総決起で闘い勝利しぬいた。現在、右翼労戦『統一』攻撃、三五万人体制攻撃など、きわめて厳しい攻撃がかけられているが、この一年間の闘いの真価をかけ、来春三里塚二期決戦の勝利を通し、この攻撃を粉砕しよう。」と、闘いの方向を力強く提起した。

続いて来賓のあいさつに入り、本部を代表して水野副委員長から「我々をとりまく世界は、アメリカ・レーガンの核戦争政策を軸に、戦争的状況に突入している。日本も軍事大国化へ向け、行革・大合理化・右翼労戦『統一』など、労働者人民への攻撃が激化している。我々は、十二・三労働者集会の成功をバネに、反戦闘争・右翼労戦『統一』粉砕の闘いを大きくもり上げるとともに、三里塚二期着工阻止へ決戦体制をつくりあげよう。」とのあいさつを受けた。

忙しい中、三里塚からかけつけてくれた、反対同盟を代表し、敷地内で不屈に闘い抜く石毛常吉さんは、十六年間の闘いにふまえ、「日本は今、再び三六年前の戦争への道を歩もうとしている。三里塚の闘いこそ最大の反戦の闘いである。反対同盟は、政府・公団のあらゆる攻撃を打ち破り、動労千葉との連帯をあくまでも堅持し闘い抜く。二期工事阻止へ向けともに頑張ろう。」と固い決意を述べられ、全参加者のわれんばかりの拍手で迎えられた。

ついで「この一年間の闘いのすべては、八一・三ジェット決戦ストライキの爆発的高揚と、この闘いの前進に対するあらゆる反動勢力総体との対決であったといえます。」の書き出しで始まる「主な闘いの経過と総括」の提起を受けた。

全代議員・傍聴者は、三月、文字通り日本を、首都圏を揺り動かし、社会の主人公は我々労働者なんだという事を示し抜いた、あの誇るべき大ストライキの感動を再び思い起すとともに、スト破り・「告訴」の動労「本部」革マルへの怒りを新たにした。

合理化問題等を中心に質疑応答を行ったのち、三里塚二期決戦を基軸に、①右翼労戦「統一」粉砕、②日帝の軍事大国化－改憲阻止、③三五万人体制・合理化粉砕、④動労「本部」革マル追放、⑤八二春闘勝利、⑥十二・三集会の大成功をかちとろうという方針が、満場一致で確認された。

そして「『全員が活動家になろう』を合言葉に、自ら闘う運動を創造し、動労千葉の最先頭に立って闘おう」というスローガンを確認したのち、新役員を選出し、代表して山下幸新支部長が「いよいよ動労千葉が本領を発揮する時代が来た。津田沼支部は、最先頭でこの激動の八二年を闘い抜こう。」との固い決意を表明した。

最後に永島本部青年部常任の指導で組合歌合唱・山下支部長の音頭で団結ガンバローを行い大会を終了した。

「本部革マルによるデッチあげ告訴攻撃をはねのけ、逆に、今日、仙台・盛岡からの帰任者全員の動労「本部」派からの脱退を遂になしとげた津田沼支部は、自信にみちあふれ、新執行体制をうちたてた。（最左端が山下新支部長）

八一年度・支部執行体制

執行委員長	山下　幸（電運士）	三九）
副　〃	綾部　光　〃	三五）
書記長	吉岡　一　〃	三〇）
執行委員	深見四郎　〃	三九）
	高石正博　〃	三六）
	伊藤詔一　〃	三九）
	川口春雄　〃	三四）
	椿　勇　〃	三一）
特別執行委員	川崎昌浩（検修係	二三）
	高橋邦彦（電運士	三五）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！